

製造現場の改善活動

生産管理・生産技術に携わる方を対象に、全24日間にわたり現場の改善研修を行いました。近年では、他部門との連携による活動も増えています。本号では、5名の講師から修了生へのメッセージをご紹介します。(2019年2月8日(金) 姫路機械金属工業会 工場改善研修講座修了式より)



改善の基礎は、気付くこと

「気付く」ということがすべての始まりです。改善テーマも気付きから生まれます。現在東大阪で中小企業の支援をしています。依頼の多くは「5Sからやりたい」と言うのですが、それよりも「今、御社で何をやらなければならないのか、一緒に考えませんか」と提案しています。10人くらいインタビューして、現場を見て、どんな課題があるのかを浮き彫りにしていきながら、「今、何をすべきか」を体系的にまとめます。結果は5Sにはならず、新たな気付きをしてもらっています。これが大事ですし、私の仕事の中で、これが最も難しいです。今回の皆さんの改善テーマは上司や会社の支援があって設定できたものが大半です。次はみなさんが、「今、この職場では何をすべきか」に悩む部下を支援する立場になります。この度の研修を振り返り「気付き」の重要性を再認識してください。



ソリューションデザイン 小野 寛さん

事実をおさえるのは簡単なようで難しい

改善、改善とよく言いますが、対策案はあるんです。本当の問題は何か。それは「現実を見えるようにすること」です。現状がどうなっているか、問題は何か、それが分かったら8割方終わりです。そのためには事実に基づいて進めてください。曖昧なところから思い込みで進めようとしても良いものはできない。事実というのは簡単なようで難しい。事実を背景も含めてしっかりと把握できるか。それによって判断も違ってきます。まず、事実をしっかりとおさえること。みなさん、データをとることに本当に苦労されています。大変ですが、研修を通じて定量化することの重要性も認識できたと思いますので、「数字でものを言う」、それを意識してほしい。人間はできると思ったら、できる方法を考えます。だから、できるとして考えてほしい。



新日鉄住金ソリューションズ株式会社 酒井 稔明さん

楽しく改善活動を

人間には根本に「良くしたい、良くなりしたい」という欲求があるので、改善活動は本来楽しんで行えるはずなんです。講座の中でもレゴブロックを使って実際にゲーム感覚で作業を改善していく実習がありますが、いつもとても楽しく盛り上がります。しかし実際の仕事での改善活動となると命令でやらされたり、ノルマに縛られたりとなら楽しさを感じられないことが多いんです。「改善活動は楽しいものではない。トップダウンによるノルマを達成すること、そ

れが本来の姿」という考え方もありますが、やはり楽しく改善活動をした方が効果も上がります。社員の自主性も出て、自然に活動が継続されて、社員も育ちます。この「より良くしたい」という本来人間のもつ欲求を駆り立て、強い意志を持って、みなさんの会社と自身の未来をより良いものに改善していったらいい。

三菱電機株式会社姫路製作所 竹端 修宏さん



生産人口の減少を見据えた活動を

改善を進めるにあたって、一番大変なのが「人」なんです。「標準書を作っても守らない。」ということが起こります。改善活動に消極的な人々も、5Sなど身の回りのテーマの場合ニコニコして協力してくれます。勿論、「こうしたい」という意思を正確に伝えるコミュニケーション力が必要です。小さなことをやりながら全社を巻き込んで、最終的には大きな利益を出す。長いビジョン・目標をもって改善を進めていきましょう。これからは労働人口が減ってきます。極力人に頼らず仕事をする。自動化ではなく無人化が必要になります。弊社では、めっき作業の無人化を実現するためにロボットを導入しました。目的を設定し、それに向けた目標を設定する。利益が上がるような改善テーマを選んで継続的に推進してほしい。

佐和鍍金工業株式会社 山下 健治さん



安全の視点を組み込む考え方を

現場では、不具合の数だけ災害のリスクが高まり、不良の可能性が高まったり、生産性が低下します。取扱いに非常に神経を使うとか、目視検査を朝から晩までやるといった作業、作業スペースが狭くて油断すると転倒してしまうといったケースです。これらを軽減したり自動化する、つまり、安全の視点を組み込む考え方を是非してほしい。また、技術・技能を必要とする作業と、誰にでもできる作業が混在すると、役割分担が不明確になり、生産効率が悪くなります。例えば、ロボットの導入は、ムダ・ムリを排して生産効率を高める一つの方法ですね。これによって社員さんは、機械でもできる仕事から解放されて「人でなければできない仕事」に専念できます。安全の要素の改善が生産性・品質に繋がっていくので、その感覚を日々の業務の中で意識しながら取り組んでほしい。ご安全に。

田島労働安全コンサルタント事務所 田島 昌俊さん



【カリキュラム】 生産活動の基礎、5Sと見える化、VE、品質・コスト・納期、データ分析手法、IE技法、改善計画策定、安全衛生、巡回指導、工場見学、改善成果発表